

本科講座 21

決算整理事項（精算表の修正記入欄）

ねらい 精算表の修正記入欄を学習する（有価証券の決算整理事項）

決算整理前の残高試算表を基にして、これに決算整理事項の修正した仕訳を加え、損益計算書と貸借対照表を作成する過程を一つの表で示したものを精算表といいます。精算表を作成することにより、当期の営業成績を早期に知ることが出来ます。基本的な記入方法は、残高試算表を記入した後、その横にある決算整理事項仕訳を加えて、資産・負債・純資産勘定科目は、貸借対照表欄へ、収益・費用勘定科目は、損益計算書欄へ記入します。

基礎講座では、精算表の修正記入欄を扱いませんでしたが本科講座では、この修正記入欄をマスターする必要があります。決算整理事項では仕訳は修正記入欄に記入します。

試験では、精算表の作成は検定試験でも毎回出題されますので、その記入方法について必ず理解するようにしてください。

精算表の記入方法（有価証券の評価替え）

本科講座 20 を例にとって学習してみましょう。

例 1 取得原価が 100,000 円 で決算時の時価が 120,000 円の場合、有価証券の評価替え（決算処理）を行い精算表へ記入しなさい。

上記の例ではまず、取得時に

借方 有価証券 100,000 貸方 現金 100,000（現金で購入した場合）  
という仕訳が行われますので決算時に残高試算表へ記入します。（基本講座で学習済）

次に決算整理事項の仕訳で

借方 有価証券 20,000 貸方 有価証券評価益 20,000  
という仕訳になります。この仕訳を T 勘定フォームで表すと下記ようになります。

有価証券	有価証券評価益
有価証券評価益 20,000	有価証券 20,000

上記の仕訳を精算表に記入すると、下記ようになります。

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
有価証券	100,000		20,000				120,000	
有価証券評価益				20,000	20,000			

精算表の見本

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	3,062,000		3,000				3,065,000	
売掛金	950,000						950,000	
売買目的有価証券	170,000		2,000				172,000	
繰越商品	920,000		890,000	920,000			890,000	
備品	310,000						310,000	
買掛金		1,080,000						1,080,000
貸倒引当金		40,000		7,500				47,500
備品原価償却累計額		93,000		46,500				139,500
資本金		3,750,000						3,750,000
売上		9,800,000				9,800,000		
仕入	8,361,000		920,000	890,000	8,391,000			
給料	520,000				520,000			
支払家賃	400,000			100,000	300,000			
旅費交通費	43,000				43,000			
支払保険料	21,000			4,500	16,500			
支払利息	6,000		4,000		10,000			
	14,763,000	14,763,000						
貸倒引当金繰入			7,500		7,500			
有価証券評価益				5,000		5,000		
原価償却費			46,500		46,500			
前払家賃			104,500				104,500	
未払利息				4,000				4,000
当期純利益					470,500			470,500
			1,977,500	1,977,500	9,805,000	9,805,000	5,491,500	5,491,500

精算表の作成方法は、次のような順序になります。

- 1 残高試算表作成し、その勘定科目と金額を精算表の勘定科目欄と試算表欄に記入します。
- 2 決算整理仕訳を行い修正記入欄に記入します。
- 3 貸借対照表の勘定科目では、残高試算表欄に記入された金額に、修正記入欄の金額を加減して、貸借対照表欄に記入します。このとき、借方・貸方どちらならば足し算をして記入し、貸借が別の場合は引き算をして残高のあるほうに記入します。
- 4 損益計算書の勘定科目では、残高試算表欄に記入された金額に、修正記入欄の金額を加減して、損益計算書欄に記入します。このとき、借方・貸方どちらならば足し算をして記入し、貸借が別の場合は引き算をして残高のあるほうに記入します。
- 5 損益計算書及び貸借対照表の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、差額を当期純利益（または当期純損失）として合計金額の少ない側に記入します。